

令和4年10月6日(木)

いちご一会とちぎ国体 派遣報告書

期 日：令和4年10月2日(日)～3日(月)

場 所：宇都宮市体育館（ブレックスアリーナ宇都宮）

報告者：上山 正智

報 告：

【10月2日】成年男子1回戦 愛媛県 — 栃木県 (15:15～)

CC：小澤（山梨） U1：林（三重） U2：上山

[PGC]

- ・大会前日(10/1 21:15～)zoomにて実施。
- ・メカニクスの確認
- ・今シーズン（JBA）のテーマについて確認
- ・ゲームの展望（スカウティング）

[振り返り]

栃木は白鷗大学のBチームを中心にチーム構成。愛媛は選抜でのチーム構成となった。ゲームの予想としては、栃木が足を使ったゲーム運びが予想され、愛媛はハーフコートバスケット中心のバスケットが予想されたが、その通りのゲーム展開となった。序盤からテンポセットとして、FOMを犯したボディコンタクト、手の絡み等、クルーでしっかりと整理できたと思う。しかし、ゲームを通してもう少し足元の整理をすべきであったと思う。途中、トラベリングのアピールからのテクニカルファウルがあった。テクニカルファウルが宣せられたことに関しては、的確に対処できたように思えるが、ゲーム序盤からしっかりと整理ができていれば、そのアピールもなかったのではないかと考える。



また、TOとの協力・時間の管理等、クルー間で協力して行なえたことはよかった。

成年男子のゲームを担当させて頂き、特に感じたことは『よりアンテナを張り続けて管理を行なっていくこと』だった。プレイヤーの心理状況（インテンシティコントロール）や、ベンチ管理等、学ぶべきことがたくさんあった。県内のゲームにおいても、今回の経験を活かし、さらに磨きをかけていきたいと思う。

【10月3日】成年女子準々決勝 北海道 — 山形 (11:55~)

CC：星野（群馬） U1：飯田（神奈川） U2：上山

[PGC]

- ・大会当日(10/3 10:15~)会場にて実施。
- ・メカニクスの確認
- ・ゲームの展望（スカウティング）

[振り返り]

スカウティングを中心とした PGC の通りのゲームが展開された。北海道は U18 代表のプレイヤー、山形はハーフコートバスケットの中でのフィジカルバスケットになった。オフボールでのコンタクトの整理、手の絡み、クロック管理をクルーでできたかと思う（クロックのミスはクルー間で正しく処理できていたと思う）。

山形は1回戦から現場でのスカウティングができていたため、Lの動きとして、より積極的にローテーションを仕掛けた。それがよかった部分と、裏目に出てしまったことがあった。プレーをもう少し見極めて、ローテーションを行なう・行わない判断をした方がよかったと感じる。また、プレーの見方も少し工夫が必要であった。

『全体を通して』

今回は成年のゲームを担当させて頂きました。プレイヤー、ベンチ等とのコミュニケーションの大切さを改めて感じた大会となりました。自分にはまだまだコミュニケーションの引き出しが少ないため、これからもっと自分のものにしていかないと感じました。また、トップリーグ担当審判員の方々のレフリーを肌で感じる事ができ、大変勉強になりました。今回の経験を県内で還元し、来年度の鹿児島国体につなげていけるよう努めて参りたいと思います。派遣いただきありがとうございました。